

あなたの会社の

事業報告書

平成16年4月1日～平成17年3月31日

●株主メモ

決算期

3月31日

定時株主総会

4月1日から3ヵ月以内

基準日

3月31日

中間配当株主確定日

9月30日

名義書換事務取扱場所

中央三井信託銀行(株)大阪支店証券代行部
〒541-0041

大阪市中央区北浜二丁目2番21号

☎(06)6202-7361(代表)

名義書換取次所

中央三井信託銀行(株)本店および全国各支店
日本証券代行(株)本店および全国各支店

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式(端株)買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙ご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

公告掲載新聞

日本経済新聞

決算公告掲載のホームページアドレス

<http://www.kubota.co.jp/kessan/index.html>

上場証券取引所

国内：東京・大阪

海外：ニューヨーク・フランクフルト



社会の底力、クボタ。

水のこと、土のこと、街のこと。

人が便利で快適に暮らせる毎日を、社会の根幹で支え、動かしていく力。

それが、私たちクボタです。



代表取締役社長 幡掛大輔

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。この度、第115期事業報告書をお届けするにあたり、ごあいさつを申し上げます。

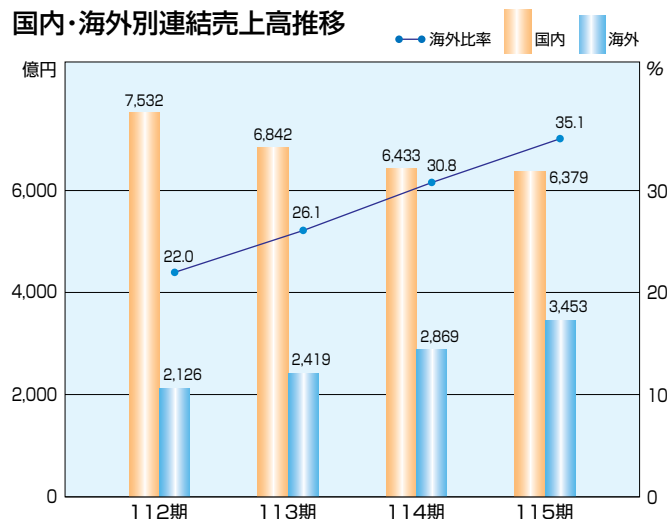
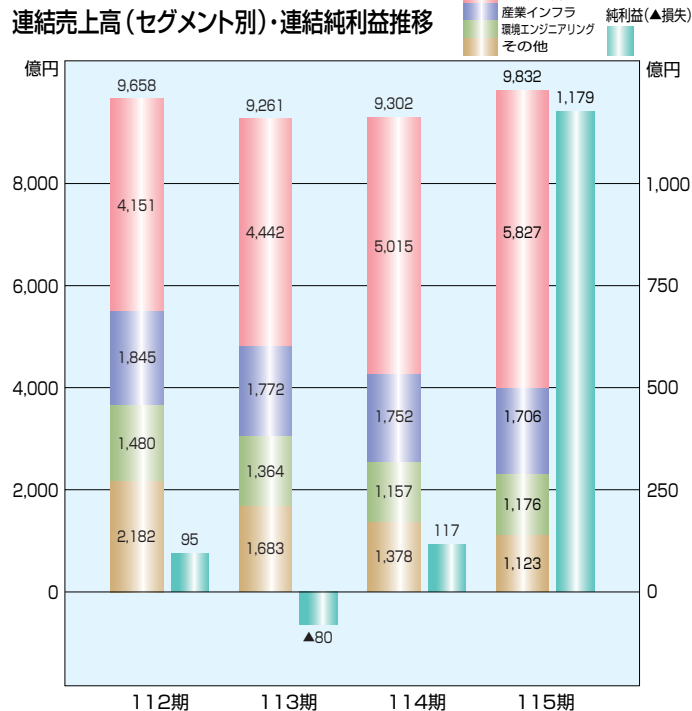
当期（平成16年4月1日～平成17年3月31日）の連結売上高は、トラクタ、エンジン、建設機械などを中心とした海外事業が引き続き高い成長を続けた結果、前期比5.7%増加して9,832億円となりました。連結営業利益は、売上の増加やコストダウン努力、年金費用の大幅減少などにより、前期比322.4%増加して923億円となりました。また、連結税金等調整前純利益は、営業利益の増加に加えて、厚生年金基金の代行返上益586億円が計上されたため、前期比496.2%増加して1,616億円となりました。これらの結果、連結純利益は前期比907.7%と大幅に増加して1,179億円となりました。

なお、配当金につきましては、株主の皆様への利益還元をより充実させるため、従来の1株当たり年間6円から2円増配して1株当たり年間8円とすることに決定いたしました。従い、既に支払済みの中間配当金3円との差額5円を期末配当金とさせていただきます。また、期末配当金の支払開始日は6月27日といたします。

わが国経済は、踊り場状態からの早期脱却が期待されるものの、依然不透明感が強く、原油や資材価格の高騰が景気に及ぼす悪影響は世界的規模で強く懸念されております。今後も当社をめぐる事業環境は予断を許さない情勢が続くものと予想されます。

当社といたしましては、現在推進中の「中期経営戦略」に沿って、海外事業の拡大と官公需関連事業の収益力強化を図るとともに、事業運営体制の変革や財務体質の強化を進めることにより、成長性と安定性を兼ね備えた事業構造・収益構造を確立してまいります。同時に、コーポレート・ガバナンスや社会的責任を重視した事業運営にも努め、経営の透明性をより一層高めてまいります。今後も企業価値の向上を目指し、諸施策の推進に全力を傾注してまいります。今後とも株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月



事業の概況

●内燃機器関連部門

内燃機器関連部門の売上高は、前期比16.2%増加して5,827億円となり、売上高全体の59.3%を占めました。国内売上高は前期比5.8%増の2,570億円となり、海外売上高は前期比25.9%増の3,257億円となりました。

国内においては、主力の農機・エンジンが、農家戸数の減少、台風や地震災害の影響などにより市場環境が一層厳しさを増すなか、機能を充実させつつ割安感を持たせた戦略商品群「熱血商品」のラインナップを拡充するとともに、大規模試乗キャンペーンなどの市場活性化策を強かに推進し、顧客層の拡大とシェア・アップにより売上を伸ばしました。建設機械も、回復基調にある需要を背景に、新製品投入やレンタル会社向けの販売拡大などを通じて売上を伸ばさせました。

海外では、トラクタが主力の北米市場における堅調な需要を背景に、新製品の投入やゼロ金利キャンペーンなどの効果的な販売促進活動により、売上を大幅に伸ばさせました。とりわけ、当期新たに発売したユーティリティ・ビークル（多目的四輪車）は予想を大幅に上回る売上を記録し、増収に大きく貢献しました。欧州においても、トラクタの売上は堅調に推移し、アジア・大洋州においては、タイ、オーストラリア、韓国などで大幅に売上を増加させました。また、エンジンは北米および欧州の大手顧客の好況などにより売上を急伸



●クボタ ミニバックホー-KX61-3

させ、建設機械も需要が世界的に増大しつつあるなか、主力市場である欧州、急速な市場拡大を見せる北米市場とともに売上を大幅拡大させました。

●産業インフラ部門

産業インフラ部門の売上高は、前期比2.6%減少して1,706億円となり、売上高全体の17.3%を占めました。国内売上高は前期比2.0%増の1,555億円となり、海外売上高は前期比33.2%減の152億円となりました。

国内では、ダクトイル鉄管、合成管の販売価格引き上げが着実に浸透するなど、価格面での改善が進みました。ダクトイル鉄管は需要の冷え込みが厳しく売上を減少させましたが、合成管は販売価格引き上げ効果により売上を伸ばさせました。産業用鋳物・素材は、鉄鋼、エネルギー、自動車関連市場向けを中心に好調に推移しました。一方、海外では、産業用鋳物・素材が売上を伸ばさせましたが、ダクトイル鉄管の中東向けが大幅に減少し、売上は前期を下回りました。



●ダクトイル鉄管

●環境エンジニアリング部門

環境エンジニアリング部門の売上高は、前期比1.7%増加して1,176億円となり、売上高全体の12.0%を占めました。国内売上高は前期比1.3%増の1,139億円となり、海外売上高は前期比12.5

財務諸表(連結)



●循環流動焼却炉

%増の38億円となりました。

上下水エンジニアリングは前期の低調な受注の影響で減収となりましたが、環境リサイクルは大型物件の出荷計上により増収となりました。ポンプは大口径ポンプが振るわず、売上を減少させました。

●その他部門

その他部門の売上高は、前期比18.5%減少して1,123億円となり、売上高全体の11.4%を占めました。国内売上高は前期比17.7%減の1,116億円となり、海外売上高は前期比67.5%減の7億円となりました。住宅建材事業の分割により、部門全体の売上は減少しましたが、自動販売機はタバコ市場向けが大幅増収となり、缶市場でも売上を増加させました。また、空調機器やマンションの売上が大幅に伸長したほか、電装機器や浄化槽も順調に売上を伸ばしました。しかしながら、工事の売上は前期を下回りました。

各事業区分に属する主要な製品名

- 内 燃 機 器 関 連：農業機械及び農業関連製品、エンジン、建設機械
- 産 業 イ ン フ ラ：ダクタイル鉄管等各種パイプ及びその付属品、バルブ、産業用鋳物・素材
- 環境エンジニアリング：各種環境装置及びプラント・エンジニアリング、ポンプ
- そ の 他：浄化槽、マンション、自動販売機、各種計量・計測機器及び同制御システム、空調機器、上下水道・一般土木工事等の設計・施工

※文中における金額は、表示単位未満の端数を四捨五入しております。

連結貸借対照表の要旨 (平成17年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 及 び 資 本 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	百万円		百万円
流 動 資 産		流 動 負 債	
現金及び現金同等物	74,563	短期借 務	186,679
受取手形・売掛金等	318,598	支払手形・買掛金	217,042
短期金融債権	50,921	そ の 他	100,324
たな卸資産	155,146		
そ の 他	76,143	流 動 負 債 計	504,045
流 動 資 産 計	675,371	固 定 負 債	186,417
投 資		少 数 株 主 持 分	21,575
関連会社に対する投融資	11,808	資 本 本	
長期金融債権	80,725	資 本 金	78,156
そ の 他	146,979	資 本 剰 余 金	87,263
投 資 計	239,512	利 益 準 備 金	19,539
有 形 固 定 資 産	219,750	そ の 他 の 剰 余 金	290,187
そ の 他 の 資 産	58,423	そ の 他 の 包 括 損 益 累 計 額	27,507
		自 己 株 式	▲ 21,633
		資 本 計	481,019
資 産 合 計	1,193,056	負 債 及 び 資 本 合 計	1,193,056

連結損益計算書の要旨 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

科 目	金 額
	百万円
売 上 高	983,226
売 上 原 価	713,312
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	181,727
そ の 他 の 営 業 費 用 (▲ 収 益)	▲ 4,112
営 業 利 益	92,299
そ の 他 の 収 益 (▲ 費 用)	
受 取 利 息 ・ 受 取 配 当 金	9,488
支 払 利 息	▲ 4,699
厚 生 年 金 基 金 代 行 返 上 益	58,571
そ の 他 (純 額)	5,902
そ の 他 の 収 益 純 額	69,262
税 金 等 調 整 前 純 利 益	161,561
法 人 所 得 税	42,542
少 数 株 主 損 益 (控 除)	3,442
持 分 法 に よ る 投 資 損 益	2,324
純 利 益	117,901

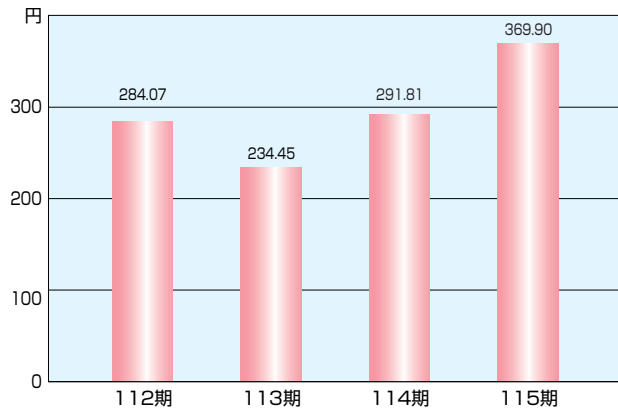
※連結財務諸表は、米国において一般に認められている会計原則に基づいて作成されています。

財務諸表(単独)

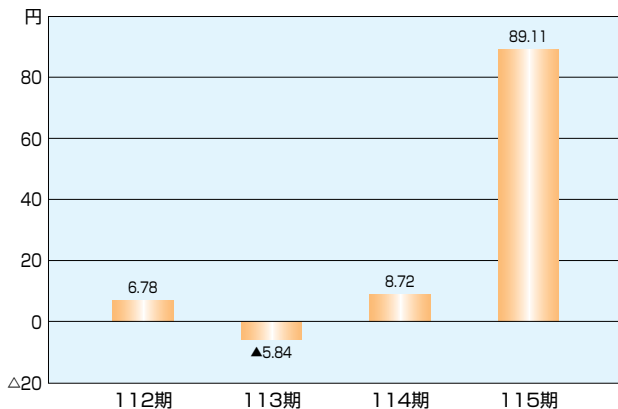
連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

科 目	金 額
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	66,908
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 78,228
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	4,508
④ 為替変動による現金及び現金同等物への影響	154
⑤ 現金及び現金同等物の純減 (①+②+③+④)	▲ 6,658
⑥ 現金及び現金同等物の期首残高	81,221
⑦ 現金及び現金同等物の期末残高 (⑤+⑥)	74,563

連結一株当たり株主資本 (BPS)



連結基本的一株当たり純利益 (EPS)



単独貸借対照表の要旨 (平成17年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産		流 動 負 債	
現金及び預金	37,618	支払手形	8,516
受取手形	50,609	買掛金	161,752
売掛金	251,645	短期借入金	45,077
たな卸資産	65,593	その他	111,855
その他	44,710	小 計	327,203
小 計	450,179	固 定 負 債	136,459
固 定 資 産		負債合計	463,663
有形固定資産	159,379	資 本 の 部	
無形固定資産	4,327	資 本 金	78,156
投資その他の資産	247,731	資 本 剰 余 金	67,159
小 計	411,438	利 益 剰 余 金	219,100
		その他有価証券評価差額金	55,002
		自 己 株 式	▲ 21,464
		資 本 合 計	397,954
資 産 合 計	861,617	負債及び資本合計	861,617

単独損益計算書の要旨 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

科 目	金 額
売上高	675,431
売上原価	504,625
販売費及び一般管理費	113,948
営業利益	56,857
営業外収益	13,767
営業外費用	5,891
経常利益	64,733
特別利益	8,834
特別損失	5,767
税引前当期純利益	67,800
法人税等	24,613
当期純利益	43,186
前期繰越利益	28,188
利益による自己株式消却額	23,880
中間配当額	3,967
当期末処分利益	43,527

※表中における金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

利益処分

当期末処分利益	43,527,890,277円
特別償却準備金取崩額	8,402,759
計	43,536,293,036
これを次のとおり処分します	
利益配当金 (1株につき5円)	6,504,216,915
取締役賞与金	167,000,000
別途積立金	10,000,000,000
次期繰越利益	26,865,076,121

(注) 平成16年12月8日に3,967,084,857円 (1株につき3円) の中間配当を実施いたしました。

株式

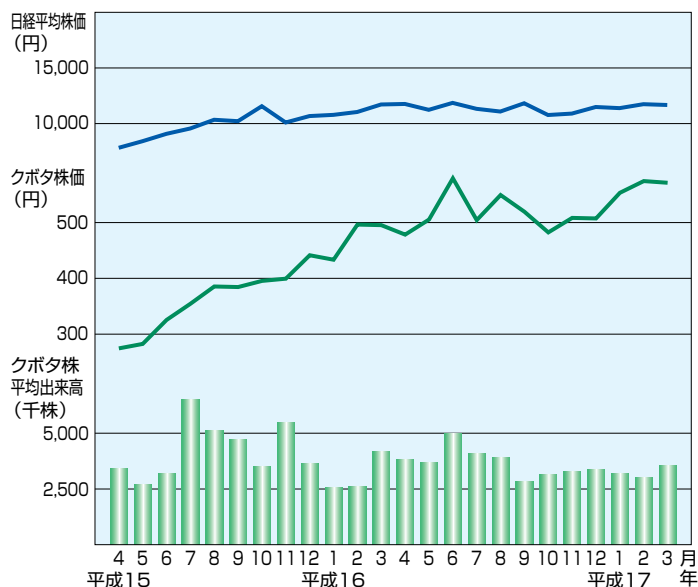
(平成17年3月31日現在)

大株主 (上位10名)

順位	株主名	株数(千株)	出資比率(%)
1	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	154,770	11.54
2	日本マスタートラスト信託銀行株式会社	113,463	8.46
3	日本生命保険相互会社	93,819	6.99
4	資産管理サービス信託銀行株式会社	90,566	6.75
5	明治安田生命保険相互会社	78,851	5.88
6	第一生命保険相互会社	48,618	3.62
7	株式会社三井住友銀行	34,620	2.58
8	クボタファンド(従業員持株会)	33,057	2.46
9	住友生命保険相互会社	23,816	1.77
10	ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	16,317	1.21

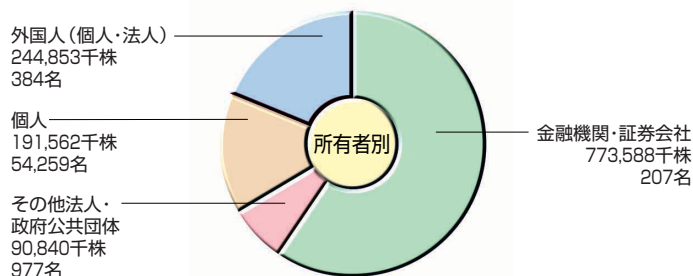
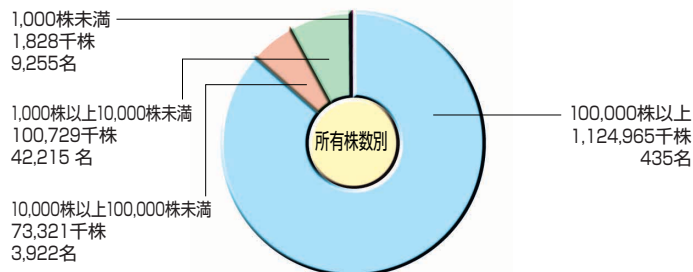
※当社は自己株式39,965,595株を保有しておりますが、上記の大株主には含めておりません。

株価・出来高推移

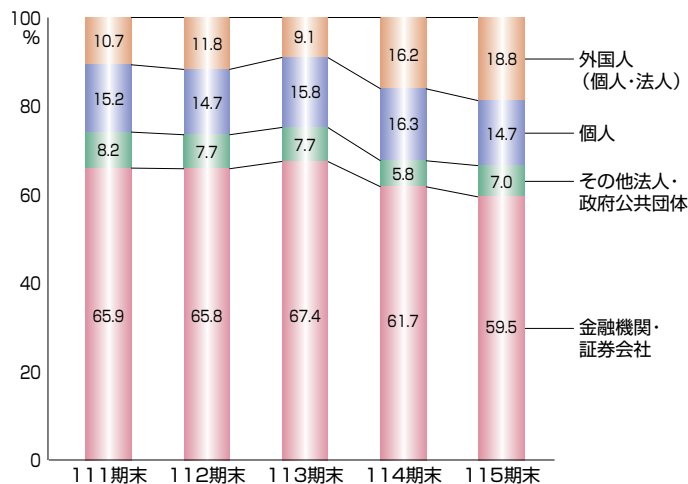


※株価は月末の終値です。

分布状況



所有者別分布割合推移



※自己株式数は上記のグラフには含まれておりません。

キングブルKB20がグッドデザイン賞を受賞

2004年10月1日、同年7月に発売された小型トラクタ「キングブル KB20」が、(財)日本産業デザイン振興会から2004年度グッドデザイン賞を受賞しました。今回の受賞は、精緻な外観スタイルと、運転がより容易・快適になるようにレイアウトされた運転席周辺の「ユニバーサル・デザイン」が高く評価されたことによるものです。

「ユニバーサル・デザイン」とは、年齢・性別・障害の有無などに関わらず、すべての人にとって使いやすい設計・デザインのことです。当社もこのユニバーサル・デザインの考え方を農業機械の設計に応用しました。国内向け16～20馬力のトラクタである「キングブル」は、ご高齢の方を主な対象として発売され、便利な高機能を、簡単にご使用いただけるよう随所に工夫がなされています。

ご高齢の方をはじめとして、すべての方にとって快適な製品を提供させていただくことを通じ、当社はこれからも社会に役立つ存在でありつづけることを目標としてまいります。



クボタトラクタ「キングブルシリーズ」

「クボタミニバックホー」3年連続販売台数世界No.1達成

当社建設機械事業の主力製品であるミニバックホーは、2004年の販売台数が約17,000台、世界シェアは約18%となり、3年連続世界No.1となりました。

ミニバックホーは、土を掘るショベルと土をならすドーザーを装備し、都市部の住宅建設や造園工事、下水工事など幅広い用途の軽土木作業に威力を発揮する小型建機です。

当社は、ミニバックホーの日本市場が1996年ごろから縮小傾向に転じたのをみて、海外市場にも力を注ぎ始めました。世界に向けてミニバックホーの利便性を継続的にアピールしてまいりました結果、その利便性に対する理解が広がり、認知度が上がるにつれ販売拡大を成し遂げることができました。

また、製品におきましては、コスト削減、高品質、高付加価値化に努め、事業運営の効率化を図ることによって競争力のある製品開発を実現してまいりました。

2006年にはさらに新製品を投入する予定であり、今後は世界シェア20%を目指し、世界No.1ブランドの確立を目指してさらなる挑戦を続けてまいります。



欧州への戦略機「U15-3」(2005年3月発売)

米国で好評を博している
「KX71-3」(2004年11月発売)

ユーティリティ・ビークル販売好調

2004年、北米で新発売したユーティリティ・ビークル（多目的四輪車）「RTV900シリーズ」が、北米のお客様・販売店様からの幅広いご支持を頂戴して、予想を大幅に超える販売台数を記録し、当社の北米事業を支える柱の一つに急成長しました。

このユーティリティ・ビークルは、農作業、工事現場やゴルフ場での作業、ハンティングや釣りといったレジャーなど、多様な用途にご利用いただける非常に便利な乗り物です。北米市場で非常に好評であったことを踏まえて、本年よりヨーロッパやオーストラリアでの販売も開始しました。

当社が長年培ってきたトラクタ技術を生かして開発されたユーティリティ・ビークルの成功は、現在推進している「中期経営戦略」の一つの柱である「拡・本業」－従来からの事業を核として周辺事業を拡大する－戦略が着実に成果を挙げつつあることを示しています。



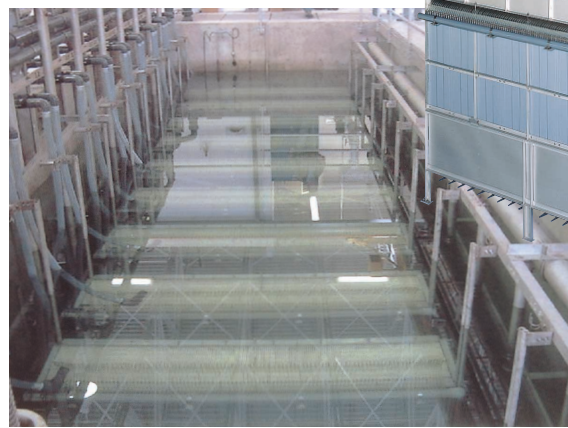
RTV900シリーズ

液中膜生産100万枚達成と「クボタメンブレンUSA」の設立

2004年12月、当社は液中膜生産100万枚を達成いたしました。1号機納入から14年、国内外のお客様から幅広くご支持をいただいた結果、一つの通過点に到達いたしました。

液中膜とは、微生物を利用して排水を浄化し、浄化された処理水と浄化に利用した微生物を分離するフィルターです（液中膜は当社の登録商標）。液中膜の孔の直径は0.4マイクロメートル（1万分の4ミリメートル）と非常に細かく、排水中の病原菌などを非常に高い精度で分離することができます。そのため、液中膜は排水処理装置としてだけでなく、排水をリサイクルできる装置としても注目を集めており、国内外の下水処理施設、食品工場その他一般事業所の廃水処理施設、中水化処理設備など、様々な施設で広く利用されております。

近年、液中膜の需要は着実に増加しており、特に北米における需要の伸びが目覚ましいため、2005年3月、当社はアメリカ合衆国（ワシントン州）に「クボタメンブレンUSA」を設立いたしました。これにより液中膜事業の営業拠点は、日本・イギリス・アメリカ合衆国の3つとなり、今後はこれらの拠点を活用して、より一層の拡販を展開し、地球の水環境保全に貢献してまいります。



液中膜 施工例



防災対策としての地下給水タンク（耐震貯水槽）

横浜市水道局では、自然災害などによる断水時にも「市民が居所からおおむね1km圏内で飲料水が得られること」を目標に、昭和56年度から災害用地下給水タンク（耐震貯水槽）134基を整備する計画が進められてきました。

当社は、この整備計画の最終案件となる横浜市内みなとみらい21地区の高島中央公園内に設置される、134基目の地下給水タンクを受注いたしました。この地下給水タンクには、当社が製造する直径2600mmのUF形ダクタイトイル鉄管が使用されており、約1500m³の容量を誇る国内最大規模の給水タンクとして、災害時にも約17万人分の飲料水を3日分確保する能力を有しています。

当社は創業以来一世紀あまりにわたり、上下水道用パイプなど生活の質的向上を目指した製品を提供してまいりました。今後もこの企業理念を堅持し、「社会の底力」として社会に貢献してまいります。



ダクタイトイル鉄管貯水槽

クボタクリーン精米屋 Super「K-CR320CS」

ご利用者からの精米品質と食の安全性に対する要求の高まりに伴い、コイン精米機に求められるニーズも変わりつつあります。それらのご要望にお応えするために、白米の仕上がり性能と精米の安全性を向上させた新しいコイン精米機を発売いたしました。

主な特長は①従来の4種類の白さに「クリーン白米」（無洗米の濁度基準をクリアした白米）を追加 ②玄米投入口に自動開閉シャッターを装備などで、精米へのさらなる満足と安心をお届けします。



クボタトラクタ「new Grandom シリーズ」

国内農業の2極化により、大規模農家層では、耕地面積の拡大がより一層進んでいます。これに伴い、大型トラクタには、①作業の多様化に対する操作性②面積・ほ場枚数の増加に対する機動性・作業性③メンテナンスを含めた経済性が求められています。当社の「new Grandom シリーズ」の特長は、①直噴ハイパワーエンジン搭載 ②ノークラッチ16段変速「i(アイ)-シフト」・自動変速「i(アイ)-マチック」③長時間作業でも疲れにくい快適な室内空間「i(アイ)-サールン」などで、100馬力以上の大型トラクタでは唯一の国産メーカーとして、当社は日本農業の発展に貢献してまいります。



クボタコンバイン「ニューエアロスターシリーズ」

昨今の稲作では、稲刈や脱こく作業の請負をされる農家の方が増えています。実際に請負作業をされる中規模・大規模の個人農家の方や農業生産法人の方などから、請負面積を広げたい、収穫量を増やしたいといったご要望が寄せられ、それらのご要望にお応えするため、この度「ニューエアロスターシリーズ」全12型式を発売いたしました。主な特長は、「きれいな強さだ」をコンセプトに、①馬力アップ・速度アップ②クボタ独自・業界初の新機能を多数装備③機能美を兼ね備えたニューデザイン④優れたコストパフォーマンスなどとなっています。



【NS形ダクタイル鉄管 呼び径500~1000】

活断層が網の目のように広がる日本では、いつ起きるか分からない地震に備えて、ライフラインの耐震化が緊急の課題です。厚生労働省が発表した“水道ビジョン”においても、水道管路の災害対策が主要な施策として挙げられています。そこで当社は、長年にわたり培ってきた技術力・開発力をベースに、耐震性だけではなく、施工性や耐久性、コストなどの面で優れた「NS形ダクタイル鉄管 呼び径(=直径)500~1000」を開発し、既に広く普及している“呼び径75~450”とあわせて、地震に強いライフライン構築のための製品ラインナップを充実させました。



代表取締役社長	幡掛大輔	取締役	片山盛光
代表取締役副社長	西野昭男	取締役	利國信行
専務取締役	藤尾嘉博	取締役	奈良廣和
専務取締役	林守也	取締役	北岡正好
専務取締役	福田俊弘	取締役	富田哲司
常務取締役	益本康男	取締役	木股昌俊
常務取締役	西口芳治	監査役	中廣正典
常務取締役	篠原栄作	監査役	隅蔵奨
常務取締役	伊澤宣夫	監査役	前田淳一
取締役	田畑芳彦	監査役	岨野悌介
取締役	植田和伸	監査役	末川義郎
取締役	小路隆	監査役	水野讓
取締役	大城徳治	会計監査人	監査法人トーマツ

会社の概要 (平成17年3月31日現在)

社名	株式会社クボタ
英文社名	KUBOTA CORPORATION
創業年月	明治23年2月
設立年月	昭和5年12月
資本金	78,156,602,534円
発行済株式総数	1,340,808,978株
株主数	55,828人
従業員数	9,301名(就業人員)
本社	〒556-8601 大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号 tel(06)6648-2111 fax(06)6648-3862
東京本社	〒103-8310 東京都中央区日本橋室町三丁目1番3号 tel(03)3245-3111 fax(03)3245-3822
ホームページ	http://www.kubota.co.jp/